

# 令和6年度 第1回 東北農政局補助事業評価技術検討会 議 事 概 要

- 1 日 時：令和7年1月15日（水）11:00～12:05
- 2 場 所：仙台合同庁舎A棟7階会議室（宮城県仙台市）
- 3 委 員：神宮字寛委員、高橋英子委員、藤科智海委員、森洋委員長  
※ 五十音順、敬称略
- 4 内 容：  
補助事業における本年度の再評価対象である農村地域防災減災事業「京田川地区」に係る評価結果書案等について資料－1により説明し、審議を行った。
- 5 審議内容：
  - 藤科委員  
令和6年7月豪雨の被害があったかと思うが、整備状況との関係性を教えて欲しい。
  - 防災課  
整備水準は10分の1年確率の降雨量をもとに整備している。  
京田川地区の計画基準降雨は、10分の1年確率の日雨量で134mmであるが、令和6年7月豪雨では酒田市で24時間雨量289mmを観測しており、観測史上最大となっている。このため、湛水は発生したものの、従来の自然排水から排水機場を新設して機械排水に排水改良したことにより、湛水時間は短くなったと聞いている。
  - 藤科委員  
施設を整備する考え方として、昨年のような豪雨に対し被害が少し軽減されたという程度で大丈夫なのか気になるところである。また、令和6年7月豪雨のような被害が今後も起こりうる可能性がある中で、整備する施設として、今のままで良いのかというところが気になるところである。
  - 藤科委員  
資料1－2のP8（4）費用対効果分析において、現計画と再評価で1年し

か経過していないが、これだけ数値が変動するのはなぜか。

- 防災課  
年度が変わり、適用する諸係数が変わったことより現在の数値になっている。
- 藤科委員  
1年であっても、数値が大きく変動するのはしょうがないものなのか。
- 事務局  
資料1—1のP6(2)総費用の総括に内訳を記載しているが、当該事業のほかに関連する施設として、一体的に効用を発現する地区内の施設全てを総費用の対象としている。当該事業費のほかこれら施設の将来的にかかる再整備費や評価終了時点の資産価額などを支出済費用換算係数や割引率を用いて現在価値化する関係から数値が変動している。また、総便益については単価を入れ替えていることも影響している。
- 森委員長  
軟弱地盤対策とは何をしたのか。
- 防災課  
排水機場下の液状化層がある深度16mまで攪拌工法により地盤改良を行っている。  
また、仮設において土留め工法にて施工している。
- 森委員長  
導水路は何もしていないのか。
- 防災課  
導水路は現況よりも水路断面を拡幅する計画である。一方で基礎地盤が軟弱地盤であることから仮設工事において湧水がたくさん出るなどの影響はあったものの、直接的な対策を講じるまでには至っていない。
- 森委員長  
令和6年7月豪雨時に、どこのエリアが湛水したのか。
- 事務局

確認する。

○ 藤科委員

湛水した場所との関係性について、未着手である1つの排水機場が湛水しているのであれば改善の余地があるが、整備済みの4つ排水機場に関するエリアで湛水があったのであれば、なんとかならなかつたのかと思う。

○ 事務局

排水機場の整備状況について補足すると、未着手である1つの排水機場については今年度にポンプ設備の据付をする予定であり、現時点でほぼ完成している状況である。

○ 藤科委員

それは、令和6年7月豪雨時点にすでに着手していたのか。

○ 事務局

ポンプ設備の据付は非かんがい期の施工であるため、令和6年7月豪雨時点では完成に至っていない。

○ 森委員長

今後、導水路も完成すれば、改善されるという認識で良いか。

○ 事務局

排水機場に接続される導水路が整備中であるため、計画排水量の全量を排水できていないのが現状である。

(以上)